VOL.44 2019.5
令和元年5月 発行

東京奥能登応援団だより

東京奥能登応援団事務局
〒102-0093 千代田区平河町2-6-3
都道府県会館14階　石川県人会内
TEL:090-8876-4901

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

SDGs未来都市

珠洲市長
泉谷 満寿裕

珠洲市は、昨年、全国の28自治体とともに「SDGs未来都市」に選定されました。神奈川県や北海道、横浜市や静岡市など大規模自治体と肩を並べ、人口の少ない本市が選定されたことは、誠にありがたく、誇らしく感じています。

SDGsとは、国連加盟国が2030年までに達成することを目指す17の大きな目標と、それらを達成するための169の具体的な目標で構成されています。2015年9月の国連サミットで採択され、先進国や発展途上国を含む国際社会全体で、人類が地球で平和かつ豊かに存続することを目的として、環境、社会、経済の3つの側面を中心に、多様な課題に統合的に取り組む未来に向けた国際的な目標です。

珠洲市では、これまで11年間にわたり、主に金沢大学と連携し、人材育成事業に取り組んできましたが、さらに、国連大学も加わり、市内の既存の企業や事業所の業績の拡大など活性化を推進する取り組みが、本市の「SDGs未来都市」としての中心的な事業となります。その拠点となる「能登SDGsラボ」が、昨年10月に旧小泊小学校の金沢大学能登学舎内に開設されました。今後、地元の企業や事業所が、大学、行政、金融機関と連携し、また、市内外の多様な団体や里山里海マイスター修了生とのネットワークを拡げることにより、地域経済の活性化につながっていくと考えています。

また、珠洲市がこれまで取り組んできた、世界農業遺産に認定された里山里海や生物多様性の保全と活用、大学との連携による人材育成事業や自動運転システム、奥能登国際芸術祭なども「SDGs未来都市」としての事業に含んでおり、今後、国の財政的支援をいただきながら、こうした取り組みについても持続的に展開したいと考えています。

「SDGs未来都市」として、「誰一人取り残さない」社会を目指すとともに、新たな動きを生み出し、珠洲市の魅力と誇りを高め、U・Iターン、移住・定住の促進につなげていきたいと考えています。

こらむ　アイデンティティ 42

帰省再考の情
天狗が語られた頃の里

科学万能時代に何ととぼけたことをとなろうが、子供の頃の里は天狗がまことしやかに生きている世界であった。隣の婆さんの天狗話が面白くそして気になり、皆で幾度となくせがんだことを想起する。生家の南西1.5キロ位に大風羅山があり、その山頂に能舞台の背景図のような黒松があって、そこが天狗の宿り木だという。誰も近づかない、いや近づけない。部屋の窓からかすかに見えてずっーと畏敬の木であった。直線上ーキロ北東にあるお社の裏山には高さ30メートルもあろうか赤松の大木があって、木肌が美しく女松である。

天狗は朝夕この間を往復するという。誰もその飛燕のような光る姿を見た者はいない。ところが、むかし奇特な百姓がいて、天狗から訊いたという話が婆さんの語りとなっていた。

天狗は言うことを聴けない子をこらしめる、善いことをする子には褒美を与える、働き手が病で落ちぶれた家族へは償う、干魃で土割れした田圃へ水を注ぐ、大水や大風の荒れた田畑を治すなど不思議な出来事が繰り返し語られる。当時は子供も働き手であったから、身につまされ、怖いイメージで正体不明の天狗であったが、弱い者や励む者の味方に心和むのであった。考えようによっては天狗の存在を借りた里の教育シフトだったのかもしれない。

今や、大風羅山の樹木は伸び茂り毅然としたかの黒松は見えない。赤松は年終え先年倒木したそうである。

（押上武文〈府中市〉　宝立町出身）

特別寄稿

親父の海が消える…

表　久雄（弁護士（我孫子市）能登町松波出身）

久しぶりに、能登に帰郷して、早朝、漁港に行った。漁を終えたばかりの船で、数人の若者が荷揚げ作業中だ。網からはずした魚を選り分ける作業をしている。

声をかけた。

「ご苦労さん。何が捕れるの？…」

誰からも反応がない。ただ、黙々と、魚をつかんで笊に放り込む。

「ことばがわからん…」

と背後から声がする。振り向くと、長靴をはいた初老の親方らしい男が立っている。そして、

「東南アジアのアンチャン達だ、インドネシア、ベトナム、タイ、みんな『研修生』だ…」

続けて言う。

「ここの若いもんは、みんな、都会へ行った。浜から若者が消えた。仕方がない…」

とぽつりと言う。

魚市場の方で、競りが始まった。が楚々としていて、どこか淋しい。横の通りに大型のトラックが一台荷を満載にして止まっている。

「名古屋に持ってゆくらしい。ガソリン代や高速代の方が高いくらいだ。あまりにも魚が安すぎる。ひどいもんだぜ…」

先ほどの老人が嘆いてみせる。この年寄り、数年前まで、漁協の組合長だったような気がする。

明治以来、勉強して国が決めた試験に合格すれば、高等役人になれた（明治憲法19条参照）。当然楽な暮らしができる。第二次大戦後になって、「明治期からの高学歴のうまみ」が地方の普通の家庭にまで浸透した。どこの親も、授業料を工面して、子供たちを都会の学校に出して、都会で、楽な生活をさせたい、と思うようになる。得体のしれない大都会の大学が増設され、繁盛した。農家や漁師や林業はだめだと、第一次産業に従事する地方の若者が消えた。

あの、黙々と、魚の仕分けをしていた、言葉の通じなかった浜のアンチャンたちが「研修生」だというのだろう。どうやら、地方から消えた若者の穴埋めにしようという考えが見え隠れする。ちょっと、言葉に詰まる。

将来、太平洋戦争の悪夢のような、我が国の歴史上、例を見ない愚策と言われるようなことにならないことを願うばかりだ。

インドネシア共和国公使が小木港の同国漁業実習生を激励

能登町小木港では、インドネシア漁業実修生が毎年30人ほど来日し、３年のイカ漁の実習を行っています。小木港の約85人を含め石川県だけで170人にも上るインドネシア人実修生が県内各漁港で水産業に従事しています。「彼らがいなければイカ漁の出船ができない」とまで言われる位に奥能登の漁業に大きな力を発揮しています。

そうした現況を踏まえ、当応援団は能登の地域経済に貢献する実修生に感謝するため在日インドネシア共和国大使館の高官の能登訪問を招請することを漁協関係者に提案いたしました。石川県漁業協同組合と小木港研修生受入船主協議会（山下会長）の了承を得て、４月16日漁協小木支部で開催された「第18次インドネシア人漁業実習生歓迎会」にボブ・フェリックス・トビン公使が列席して、実修生に対し安全第一の心構えと励ましの言葉を送りました。持木町長はじめ石川県漁協の来賓を前に25人の実習生の代表は覚えたての日本語で「日本には郷に入っては郷に従えの言葉があります。日本に習慣に慣れて元気で実習に励みます」と決意を述べました。式典後のパーティーでは、インドネシア人のバンド・チュミーボーイの演奏に公使も登壇してインドネシアの歌を歌い、実習生との交換を楽しみました。

前列中央・山下会長、トビン公使、持木町長

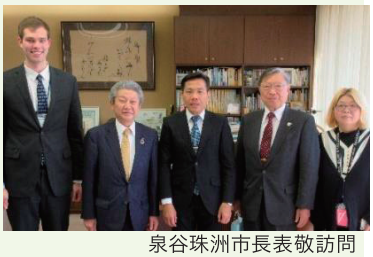
○居住外国人（S30.12現在）

珠洲市／インドネシア22人、中国19人、カンボジア14人、ベトナム９人

能登町／インドネシア85人、ベトナム34人、中国29人

○石川県内の外国人技能実習生

総計５，２４７人（うち能登町122人、珠洲市56人）


泉谷珠洲市長表敬訪問

横浜石川県人会の桜まつり

横浜石川県人会（本田ゆり子代表世話人）は3月30日（土）横浜市中区・大岡川桜まつりに、揚浜本舗（中谷博光代表）と共に「いしかわ物産展」を出店した。恒例行事として横浜に定着したことから、能登の海産物や石川の地酒、お菓子などの銘産品が花見客に好評を博した。

石川県人会や能登半島見附島の法被の売り子の声に「私も石川ながや」と足を止める出身者がテントに立ち寄り懐かしいふるさとの銘産品を買い込んでいた。利き酒コーナーでは日本酒ファンに石川の地酒が振る舞われ、酔うほどにふるさと訛りのトーンが段々と上昇して、三分咲きの桜を尻目に〝花より団子〟の車座が次第に広がりを見せた。初顔同士の自己紹介でふるさと談義が満開となり春の宴を楽しんだ。

小兵ながら土俵を沸かせた珠洲出身の駿馬が今春引退を決意～

駿馬赤兎（中板秀二）引退へ

似顔絵画家・黒沢淳一氏と

大関照ノ富士と

駿馬は大学では相撲部に所属していませんでしたが、身長基準が低くなるなど新弟子検査が変更になったことで角界入りを決意、大学卒業と同時に間垣部屋に入門しました。身長163cm、体重118kgと角界で最も小兵でしたが、大型力士を豪快に投げ飛ばすなど幾度も土俵を沸かせました。最上位は幕下であったものの、15年に及ぶ土俵勤めは辛抱を重ねまさに“能登魂”で相撲道に精進する姿勢に賞賛が送られました。また、間垣部屋からの同門大関・照ノ冨士の付け人として、昇進を支えて来たことも特筆すべきことでした。長年本当にお疲れ様でした。

引退後は、外国人向けの相撲イベント会社に所属して、日本の国技・相撲の普及に努めるそうです。土俵は変わりますがご健闘をお祈りいたします。

頑張れー！！

経歴

2000（平成12）年：飯田高校卒（第52回生）

2004（平成16）年：杏林大学外国語学部中国語学科卒　同年3月、大相撲初土俵（間垣部屋）後に伊勢ヶ濱部屋に移籍

生涯戦歴：３０３勝・３０２敗（90場所）

飯田高校同窓会 東京支部総会

・日時／5月18日（土）11：30～　・会費／3,000円

・場所／都市センターホテル　レストラン「アイリス」

千代田区平河町２－４－１　03-3263-3010

隔年開催の総会の合間に役員、有志で意見交換を行っています

お問合せ先／光眞（みつざね）090-8876-4901

アンテナショップ いしかわ百万石江戸本店

“グルメリレー”

5月18日（土）11:00～18:00

小木いか天ぷらうどん・いかの鉄砲焼き

八戸港、函館港に並ぶ、いかの日本三大漁港である、能登町小木港からの直送です。

船凍いかは、釣った直後の新鮮なするめいかを船内で急速冷凍させたもので、高品質、鮮度抜群ないかを使用した「天ぷらうどん」と「鉄砲焼き」が提供されます。

能登の地酒（珠洲市櫻田酒造）の試飲会も同時（15：00、16：00、17：00）に開催されます。

頑張る奥能登人

イラストレーター
石井ゆきさん
（珠洲市若山町出身）

インドネシアの仲間と

[プロフィール]
〈平成元年3月〉飯田高校卒業
〈平成2年3月〉辻製菓専門学校卒業
〈平成2〜平成8年〉
大阪の飲食店でお好み焼き、鉄板焼きに従事
〈平成8年〜平成13年〉
飲食チェーンでショップツール制作
〈平成14年〉
大阪のウェブ制作の会社で販促用似顔絵プロジェクトに参加、インドネシアでイラストを指導（以来、現地と日本を往復）
〈平成16年〉
インドネシアの似顔絵制作スタジオを現地法人化、都内のウェブ制作の会社でディレクター
各種モバイル案件などの似顔絵制作管理活動
都内を拠点に日本国内向けに17年間で約60万枚以上のイラストを制作管理
〈平成25年〉
珠洲市にwinstudio japan 合同会社を設立
以後現在まで継続して現地法人と連携して似顔絵を制作管理

珠洲にUターンして珠洲内外の知人たちやアジア圏の知人と助け合って地元の情報を発信し、飲食の経験とインドネシアとの連携を生かしつつ、食材の生産・加工に携わり似顔絵イラストを関連させた商品の販売を目指しています。

◎連絡先
E-mail：y.ishii@winstudio-japan.com

吟詠家

前山 紫峰（まえやま しほう）
（珠洲市大谷町）

ふるさと歌謡を謡う

[経歴]
平成4年：クラウン吟詠家オーデションに合格
平成11年：少壮吟詠家審査コンクールに合格
日本武道館にお
いて「第二十一期少壮吟士」に認定される
平成11年：吟道紫虹流上席師範となる
平成30年：全国少壮吟士会会長に就任する

〈音楽活動〉
・NHK専属の吟詠家として毎年ラジオ、テレビに出演
・日本武道館をはじめ、さまざまな舞台に出演

〈抱負〉
地元の活性化に少しでも貢献できるような歌を届けられるよう自ら作詞、作曲を手掛け、音楽活動の枠を広げています

◎お問合せ先　TEL／FAX：0768-87-2294

図書紹介

岩崎美咲さん作　（講談社）

コミック「スキップとローファー」

作者・岩崎さんのおばあちゃんは蛸島にお住まいの方で、漫画の舞台は珠洲です。

ストーリー
主人公・岩倉美津未は中学卒業を機に、石川県のはしっこから東京の高偏差値高校へ進学したぴかぴかの高校生。勉強こそできるものの、過疎地育ちゆえに同世代コミュニケーションの経験がとぼしい。そのうえちょっと天然で、慣れない都会の高校はなかなかムズカシイ!

…続きは読んでのお楽しみに！

事務局から

ターミナル駅や観光地で外国人観光客の増加を目の当たりにしたり、外国人技能研修生の受入れの法改正が論議される報道に接しながら日本の国際化の現況を感じています。奥能登にもその波が押し寄せています。国際化の進展が避けられない中で当応援団は、15年以上の長きにわたり漁業実修生を受け入れている石川県漁業の「新入生歓迎会」にインドネシア共和国公使の激励訪問を仲介しました。外国の技能実習生が奥能登の地域経済発展に益々貢献することを期待しています。
〔東京奥能登応援団〕　代表／光眞　章　副代表／下平　康次